

2日 木曜

I サムエル

18:10 その翌日、わざわいをもたらす、神の靈がサウルに激しく下り、彼は家の中で狂いわめいた。ダビデはいつものように豎琴を手にして弾いたが、サウルの手には槍があつた。

18:11 サウルは槍を投げつけた。ダビデを壁に突き刺してやろうと思ったのである。ダビデはサウルの攻撃から二度も身をかわした。

18:12 サウルはダビデを恐れた。それは、【主】がダビデとともにおられ、サウルを離れ去られたからである。

18:13 サウルはダビデを自分のもとから離し、彼を千人隊の長にした。ダビデは兵の先に立って行動した。

18:14 【主】が彼とともにおられたので、ダビデは、行くところどこででも勝利を収めた。

18:15 彼が大勝利を収めるのを見て、サウルは彼を恐れた。

18:16 イスラエルもユダも、皆がダビデを愛した。彼が彼らの先に立って行動したからである。

サウルは自分のためだけに生きることが、すでにその目的になってしましました。そうなると自分の安心が第一となり、ダビデがいかに主のご計画を進める人物であっても、心配の種になってしましました。そして自分がまるで被害者のように思い込んで、自分を守るために他人に攻撃的になるのです。それで、なおさら主と民の前に、自分の価値をおとしめることになってしまった。

それは現代でも、またクリスチヤンでもありうることなので、よく気をつけなければなりません。またそのような人には、主の愛による安心が必要です。

ダビデは、そのような自己中心な王であっても、主が立てられた権威に、またはまだ残しておられる



Bible Reference
聖書の記述

権威に対して、主のゆえに忠実・従順でした。それは自分を神と民の前に自分を高めることとなりました。さらにはそれが主のご計画を進めることになったのです。

私たちもダビデを模範として、理不尽に感じることでも主の時を信じつつ、主の権威と計画に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

